

特別の教科 道徳 授業づくり講座(授業研究会)

in 東洋町立甲浦中学校 内容項目【思いやり、感謝】

授業をアップデート!
生きて働く学びを創る!

令和6年3月発行
東 教育 事務所

東部管内の
講座情報



今年度の道徳科授業づくり講座では、「道徳科 チームミーティング」の手法を取り入れ、授業力アップを図っています! ぜひ、校内研修の参考にしてください。

道徳科 チーム
ミーティング
とは?



※道徳科授業づくり講座講師である森教授が考案された、**ファシリテーター**が参加者の協働的な学び合いを促し、短時間で進んでいく教材・授業研究会のことです。

道徳科における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて ～協働的な校内研修で組織的な授業改善を!～

道徳科 チームミーティング(授業研究)の流れ

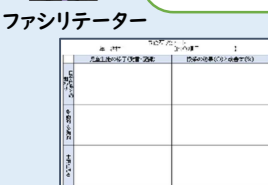
① チームミーティングの流れと教材・内容項目等を確認する(1分)

② 授業者が授業で気になった点を報告する(2分)

授業者: ジャムボードでこれまでの思いやりを分類したあと、「相手に気付かれない思いやりができる心」について深めていきかけたのですが、時間的に難しかったです。

③ 「事後研究シート」の項目をもとに協議する(30分)

授業者の課題を踏まえて、事後研究シートの視点で生徒の姿から**成果**や**改善策**を話し合います。



事後研究シートの様式は、東部教育事務所HPに掲載しています

④ 授業者が次の授業で改善したいことなどを報告する(2分)

授業者: 今回は、様々な視点から考えていきかけたので、あえて教師をグループに入れましたが、個人思考で深めていく様々なアイデアを得ることができました。

⑤ 協議結果を記録・保管する

※参加者各自の授業改善に生かしていきましょう

【主題名】 本当の思いやりとは 【教材名】 「月明かりで見送った夜汽車」(中学3年生)



まず、学習指導案で次のI～IIIを確認しておきましょう。
「I 指導の要点」を子どもの言葉にしたものが「II 引き出したい考え」です。

I 内容項目と指導の要点

【本時の指導の要点】

相手に気付かれない、重荷にならないような思いやりは、相手の存在を大切に心を寄せることから生まれ、それが結果として人と人の絆を強めていくことについて考えを深めていく。

II 引き出したい考え

- 見返りや感謝を求めずに、ただ相手を思って行動するのが思いやりであると思う。
- 今まで気付かなかっただけで、自分もこれまで見えなかった思いやりに支えられていたのかもしれない。そのような見返りを求めない思いやりの心を、自分も周りに贈れるようにしたい。

III 評価の視点と指導の工夫

	評価の視点	指導の工夫
自分自身との関わり	思いやりについて、自らの考えや言動を振り返り、生き方に生かそうとする思いを持っている。	・アンケートの活用(導入と振り返り) ・振り返りでの書く活動
多角的・多面的	相手に気付かれない、見えない思いやりのよさや難しさ等、思いやりについて様々な視点から考え、見方を広げている。	・登場人物の思いやりを人物関係図に示す。 ・ジャムボードを用いて自己の体験を分類したり体験に基づいて議論したりする。
主題に迫る	II 引き出したい考え と同様	【問い返し】 ◆拍手や電気を消すことは相手に伝わらないのに、思いやりと言えるのだろうか。 ◆感謝されたい思いは誰にでもあるのではないのか。どのような考えから相手に見えない思いやりの言動ができるのか。

授業の様子



※自己の体験を、「見える(気付く)思いやり」と「見えない(気付かれない)思いやり」に分類し、気付きを話し合う。

生徒の振り返り

- 相手が気付く思いやりと、気付かれない思いやりがあり、どちらも相手を思ってのことだが、気付かれないようさげなく思いやりができるのはすごいと思った。
- 自分は思いやりの行動をしたあとに、「してあげた」「感謝してほしい」などと思う心の弱さがあることに気付いた。

協議での意見

- 事前のアンケートやジャムボードでの分類により、自分事として捉えられていた。
- 板書の人物関係図によって教材の理解が深まるとともに、様々な視点からの発言があった。
- 人間の弱さに対する教師の問い返し「思いやりって伝わらなくてもいいの?」が効果的で、ねらいに迫る発言や記述につながった。

★改善策

- ★「気付かれないのに、なぜ思いやりの行為ができるのか」について、個人でじっくりと考える時間をとってから共有してはどうか。
- ★「してあげている」という自分中心の考えではなく「相手の負担にならないさげない思いやり」について深めるために、「気付かされると相手が気を遣う」という生徒の意見に対して問い返し、全体で価値について考えてはどうか。

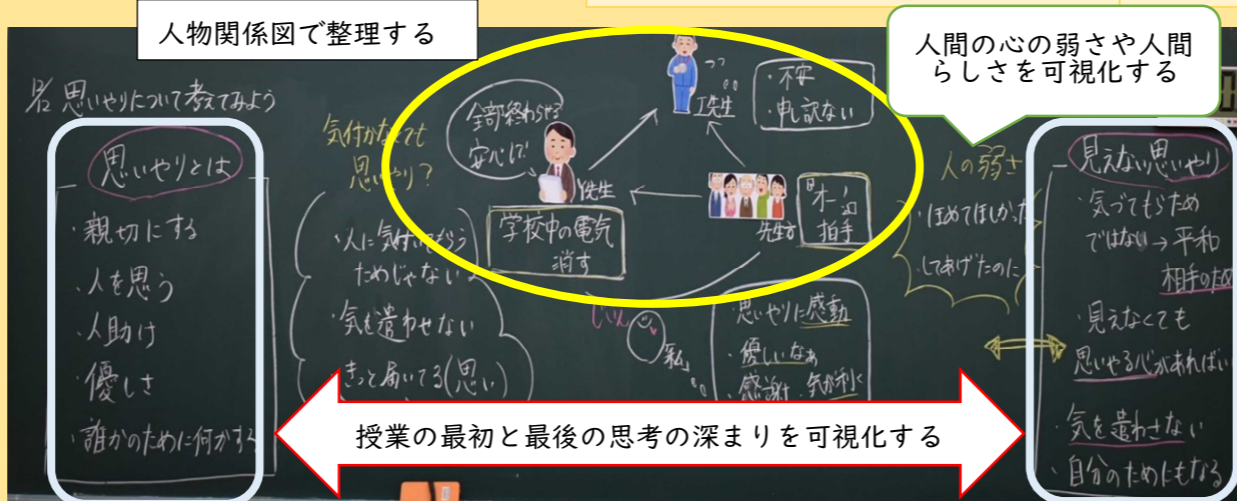
では、話題になった「思考を深めるための個人思考と協働の学びのバランスと支援」に焦点を絞って、具体的なアイデアを出し合ってみましょう。



ファシリテーター

※このように途中で協議の視点を再焦点化することも有効です。

板書の工夫



人物関係図で整理する

人間の心の弱さや人間らしさを可視化する

授業の最初と最後の思考の深まりを可視化する

check

道徳的な問題を探究するための発問のポイント

- 人間の(心の)弱さや人間らしさにも着目しながら、人間理解を深める。
*それは、実際には難しいことではないか。できないと思うのはどういう気持ちからか。
*それは、よくないことなのか。どうしてだめなのか。
*その気持ちのあと、さらにどのような気持ちが湧いてくるのか。
- 道徳的価値の理解を深め、その意味を考える。
*どうしてそう思うのか。
*本当にそうなのだろうか。それでいいのだろうか。
*○○(道徳的価値)とは、どのようなことか。その中身は、何か。
*○○(道徳的価値)は、なぜ大切なのか。
*どのような考えから、○○(道徳的価値)を実現しようとするのか。
*どうすれば、○○(道徳的価値)を実現できる(表せる)のか

高知大学教職大学院 森 有希 教授 資料より

参加者より

- 個人思考の深め方や、共有の仕方(ジャムボードの活用、多面的・多角的に深める手法等)について新しい工夫を知ることができた。
- 考えを深めるためには、教師が人間の弱さや、異なる視点・逆の視点から問い返すなどの工夫が効果的であると思った。